高　野　町　長　賞

税について考える

高野町立高野山中学校　三年　髙木　奏汰

僕たちの身の回りには、税金によって支えられているものがたくさんあります。ですが普段の生活の中ではあまり意識することがなく、「大人になったら払うもの」としか思っていませんでした。だけど授業や新聞、ニュースなどを通して学ぶうちに、税金の大切さを改めて実感しました。

僕は今、中学校に通っています。校舎の建設や維持、エアコンの設置、教科書の配付など、多くの部分が税金で使われています。

夏の暑い時期に涼しい教室で授業を受けるのは当たり前だと思っていましたが、実は多くの人が納めた税金のおかげだと知って驚きました。

もし教科書が有料だったら、家庭の経済状況で学習に差が出てしまうでしょう。誰もが平等に教育を受けられるのは、税金のおかげなのだと僕は思います。

税金は教育だけではなく、地域の生活にも欠かせません。

道路や公園、図書館、自転車置き場など、僕たちが毎日利用するものも税金で整備されています。道路が整っているからこそ、安心して自転車で通学できます。税金は安全で便利な暮らしを守っています。

また、医療や福祉にも大切な役割を果たしています。

例えば、家族の誰かが入院したとき、医療費の一部が公的制度で軽減され、家計への負担が少なくなります。高齢者や子どもを守るためにも、税金はなくてはならない存在です。

一方、少子高齢化によって税収が減り、社会保障費が増えているという話も聞きます。僕たち中学生はまだ税を納めませんが、将来は社会を支える一員になります。そのときに「取られるもの」ではなく、「皆で支え合う仕組み」だと理解して税金を納めたいです。

将来できることは、正しく働き、きちんと税を納めることです。税は教育や医療、防災環境保護など社会全体のために使われます。僕が納めた税金が、未来の子どもたちの学びや困っている人の助けになると思えば、義務であると同時に誇りにもなるでしょう。

僕は税金のことを考えると「支え合い」という言葉が思い浮かびます。

税金は目に見えにくい形で暮らしを守り、未来へとつながっています。

まだ僕は中学生ですが、大人になった時、誇りを持って税金を納められる大人になりたいと思います。